

2歳児クラス



～手が動くと数が育つ～

●テーマ：ブロック遊びからなる空間認知能力●

活動：磁石：マグフォーマー

●子どもの様子●

1歳児クラス時から慣れ親しんだ玩具で集中して遊ぶ姿が見られた。はじめは四角のマグフォーマーを上を重ねていくことを楽しんでいた。それから、三角を作り始め、それを組み合わせることに成功し、保育者に「見て～！」と嬉しそうに伝えてくれた。

次に五角形のマグフォーマーで、組み合わせを行っていく姿が見られた。一度、保育士が五角形のボールを作って見せた。それを崩して違う形を作っていると、本児がそばで五角形の形を次々に組み合わせる。「ボールつくりたい」と保育士に伝え、うまくできず崩れてしまう。それでも何度もちゃんレンジして最後に、五角形のボールのような丸ができ、しばらく眺める様子が見られた。

↓四角のマグフォーマーを縦に積み上げる



↓三角と四角を組み合わせる



↓四角のマグフォーマーを横に広げる



●振り返りを踏まえた気付き●

まずは同じ形を集め、上へ上へとマグフォーマーを積み上げていた。次に三つを機見合わせ、三角を作り出し、今度は横へ広がるように組み合わせる姿が見られた。

保育士が横で、五角形のものを組み合わせ、ボールのような丸いものを作っていた。すると、保育士の横で見様見真似で組み合わせる姿が見られる。

試行錯誤しながら、時間はかかったが自分で作りだすことができた。

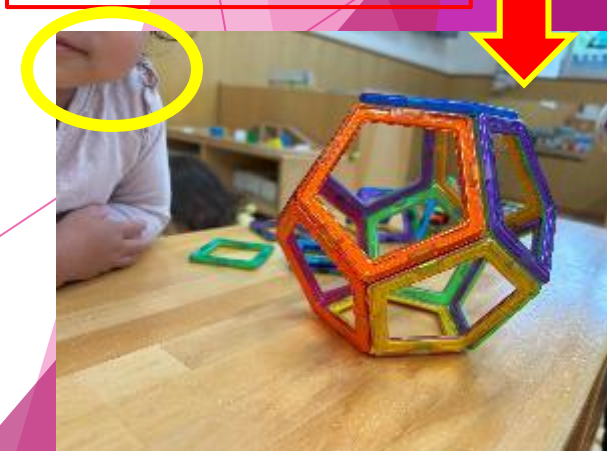
四角・三角・丸等、言葉に出して形を表現し、また、目で見えて観察を行い、自分で考え立体に表す再現力もついている。

上に、横に、そして立体的に、マグフォーマーを作ること、イメージする力等、10の姿「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」にもつながる姿を見ることができた。

写真には写っていないが、完成した時にはとても満足そうな票用を見ることができた。

次は、どのような表現をしてくれるのかとても楽しみである。今後も追ってみたい。

↓五角形がボール完成し、満足そうに微笑む（左上）姿



●テーマ：ブロック遊びからなる空間認知能力●

活動：磁石：マグフォーマー

●子どもの様子●

4月の様子は、保育士の作った物を見て真似するという姿であったが、5月になると自分の頭の中で組み立てる図ができており、作るスピードも速くなった。



1歳児クラスのお子様から「ボール作って」のリクエスト有。



様々な形から五角形のマグフォーマーを集める



組み立てに集中する



←五角形マグフォーマーの上に四角形を乗せて完成！

●振り返りを踏まえた気付き●

毎朝、好んでマグフォーマーで遊ぶNちゃん。日々繰り返すうちに、五角形を組み合わせ立体的なボールが一人で作れるようになった。今回は、1歳児クラスのお友達が「ボール作って！」のリクエストを受け、一人で作り始める。以前は保育士に「どうするの？」「つぎは？」等々、聞きながらであったが、今回は自分で組み立て、あっという間に完成させることができた。1歳児クラスのKちゃんと二人で、ごっこ遊びに発展。五角形のボールの上に、四角を置いて「マンション」を完成させた。

●取り組みに関して●

この取り組みに関して、一昔前までは「積み木」「あやとり」「公園の遊具」等、体を使った立体的な遊びが一般的であった。こうした遊びを通して、こどもたちは自然と空間認知能力を身に付けることができていたが、現代ではスマートフォンやタブレットなど平面的な遊びが中心となりつつあり、空間認知能力の低い子が多くなっている。

空移管認知能力が低いと、躓く、特にスポーツでは、ボールを持っている相手の位置がわからないので、球技が苦手になりやすい。

日常の様々な場面でストレスや不安を抱えやすくなるように、保育園でできる遊びの中でのサポートを行っていきたい。

～すくわくプログラム～

picoナーサリ久我山ガーデン：6月：2歳児

●テーマ：ブロック遊びからなる「数唱」～数字の音や並びを覚え始めた証拠～●

活動：レゴブロック

●子どもの様子●

レゴを使用して友達と一緒に街づくりをしていたNくん。今数字に興味をもってレゴ版の上に数字を表してみる。

作った制作物を持ち「写真撮って！」とお願いをしてくる。写真を撮ると飾ってほしいとリクエスト有。



「作ったよ～見て～」と立
体制作したレゴブロック
を店に来るRくん



「ぼくは『3』を
作ったよ！と見せに
くるNくん



ブロック版を見ると数字
の「3」を作っている。



時間をおいてNくん、
今度は「0」を作っ
たよと見せに来る。

●振り返りを踏まえた気付き●

自分でレゴブロックを選び、数人のお友達と一緒に「ぼくのおうち」「ほいくえん！」等々、口々に立体的に見た手遊びを行っていた。そばで黙々と遊んでいたNくんが「『3』つくったよ。」と教えてくれた。クラス担任も彼の興味を知り、数字が書いてある本、時計に関する本を用意する。すると2桁の数字まで読めるようになる。ブロックで作った数字から、今Nくんが興味がある数字を知り、担任がその様子をキャッチして、保育の何気ない空間に用意することでより深く数字に興味を持つ姿が見られた。

●取り組みに関して●

平面から立体にブロック遊びが変化していたところに、平面で製作をする様子が見られた。何を制作しているのか見てみると、数字を制作していたことがわかる。その日から、彼の中で時計を見たり、日付を見て数字を口にする姿が見られた。この児の数字に関する世界観を広げるために、絵本からアプローチを考え、見事、児の心をつかんだ担任の子どもに対する寄り添い方を強く感じた。



←いつの間にか
数字が読めるよ
うになっている。
寝転がり絵本に
書いてある数字
を読む姿が見ら
れる。

●テーマ：洗濯ばさみ遊びからなる「数唱」～数字の音や並びを覚え始めた証拠②～●

活動：洗濯ばさみ遊び

●子どもの様子●

洗濯ばさみ遊びをしているときに「ラプンツェルにしてあげる！」と職員の髪の毛に洗濯ばさみを付け始めるEちゃん。美容師さんになりきり、洗濯ばさみを保育士の髪の毛に付け始める。そして数を数え始めた。



美容師になりきり「ラプンツェルにしてあげる」と洗濯ばさみを花に見立てて保育士の髪の毛につける。



「どれくらいつけたの？」という保育士の問いに「えー？かぞえてみる！」と洗濯ばさみを数え始める。



頭の上から順番に数を数えてみる。途中何度もわからなくなるが、繰り返し「1. 2…」と数える。10まで数えることがスムーズにできた。

●振り返りを踏まえた気付き●

2歳児クラスの数名は数を数えることに興味を示している姿が見られた。ごっこ遊びから、数を数えたり、別日では、洗濯ばさみをライオンに見立て、片付ける際に、洗濯ばさみを数えながら外す様子も見られた。前回、10までしか数えることができなかったが、10より上の数え方も覚えていた。また、数を数えるときはリズムもついており、目で見て、耳で聞いて、口に出してみても、この時の子どもたちは「五感」すべてで数を吸収していることに気付いた。この時期に見られる数字を順番に声に出して数えること、また「3つちょうだい！」と伝え、数量の理解もできており、3歳前後の発達が見え始めることができた。

●取り組みに関して●

ごっこ遊びの中から、数の概念が生まれていることに気付き、数が少しずつ日を追って数えられるようになったことに気付いた。初めはディズニーのお姫様に変身させてあげるといった女兒の思いで始まり気付いた成長であり、数を数える「数唱」だけでなく、数量の理解もできていることに驚いた。日頃からクラスの担任が、積み木やブロック、数の書いている絵本等を日々の生活に何気なく取り入れることで、数に対する理解が生まれると考えられる。保育士の関わりで、個々の得意分野が育っていくことを改めて学んだ。

後日、洗濯ばさみ遊びでは、数を数えながら、つけたり外したりできるようになっており、遊びのなかで自然に数に触れている様子が見られた。⇒



～すくわくプログラム～

picoナーサリクス我山ガーデン：8月：2歳児

●テーマ：ビーズ遊びから「数量の理解・分類・多少の比較」～数字の音や並びを覚え始めた証拠③～●

活動：ビーズ遊び

●子どもの様子●

ビーズ入れの箱を裏返しにしてビーズ屋さんを始める。お店屋さんにするためにきれいにビーズを並べ始める。



「いらっしゃいませ～！ビーズ屋さんです。」と言いながらビーズ入れの箱を裏返し
てビーズを並べ始める。



まずは「赤・黄色・ピンク・青」と
口で色を言いながら並べ始める。



色を言っていたが、保
育士とのやり取りの中
で「赤は3個！」「青
は2個」等々、ビーズの
数を数える姿が見られ
る。

●振り返りを踏まえた気付き●

お店屋さんごっこを行っている際に、ビーズをひっくり返し箱の後ろに並べる。初めは色を言いながら並べていたが、ある程度並べると「赤は何個か？」という保育士の問いに数えながら考える姿が見られる。少人数での遊びの中で保育士と一緒にごっこ遊びを行う中で、数を数え始め、そこから2歳児としてのあらゆる角度からの育っている力を見ることができた。

●取り組みに関して●

前回「洗濯ばさみ遊び」から数が数えられるようになってきていることに気付いた。単純な数唱ではなく、ここで育っているのは1対1の対応、「対応関係の理解」であり、並んだビーズをひとつずつ指さしながら数えることで「数える数詞」と「実際のもの」を対応させる力が伸びていると考えられる。これは「数唱」から「数概念」への大きな一歩だと考えられる。また、「赤は3つ」「青は2つ」と色ごとに分けて数えるのは「分類する力」カテゴリー分けする力と「多少を比べる力」どちらが多い？少ない？という考えが育っていると考えられる。

また、観察力・言葉の発達も見られ、「赤が多いね」「青が少ないね」と言えることで「語彙の拡がり」や「観察力」にもつながっていると考えられる。

「数唱」ではなく、「数量の理解」「分類」「多少の比較」という認知的な成長が見られ、2歳児にとっては「ただ言える（数唱）」→「数とモノが結びつく」→「色ごとに数える・比べる」という流れで数の概念が育っていると感じることができた。

保育士が質問をし、
「赤は何個かな？」
「5個じゃない？」
「じゃ青色は？」
「うーんと…1、2、
3」と数の確認の会話を
する姿が見られる。



～すくわくプログラム～

picoナーサリ久我山ガーデン：9月：2歳児

●テーマ：●カプラボーリングでの「数唱の発展」「数量の理解の目覚め」「結果の数への気づき」④

活動：カプラ

●子どもの様子●

井形ブロックで遊んでいたが、カプラを見つけ、「ボーリング遊びする！」と自分で遊びを見つけ、井形ブロックとカプラを組み合わせで遊び始める。



先日家族でボーリングに行ったことを話してくれ、自分から「今からボーリング遊びをするよ！」とカプラを並べ始める。



井形ブロックをボーリングに見立てカプラをピンにしてボーリングを再現する。



カプラが倒れると、倒れたカプラに近くに行き、「何本たおれたかな？」と自分で確認に行く姿が見られる。倒れた数と、倒れなかった数を自分でそれぞれ数える姿が見られる。この動作を何度も繰り返し、一人で「ボーリング遊び」が成り立っている。

●振り返りを踏まえた気づき●

カプラを一つずつ並べるときに「1. 2. 3」と数えることで、順番に数を唱える経験が育つことが伺える。「順序をつける」ことは、数の学びの入口だと感じる。「ボーリングにいった」という経験が児の中で大きな思い出となっており、ボーリングのフォームまで見せてくれた。よりボーリングの世界観を広げるために、自分からカプラを並べ始め、並べるときに「いち、に…」と数えることを積み重ねることで「数唱（ただ言う）」から「数量理解（数とモノが対応する）」への橋渡しとなることが見受けられる。何度も繰り返し行い、カプラが倒れることで、倒れたカプラを数えるという遊びにもつながり「結果の数」を意識できるようにもなっていた。自分の中での楽しかった思い出を、保育士に実際の様子を再現する力も、創造力の成長を嬉しく思った。

●取り組みに関して●

井形ブロックを四角に組み立て、それをボーリングのボールに見立てる。児の中でカプラはボーリングのピンとして見立てることで、「ボーリング」としての遊びへと発展する。ボールを転がして倒れたカプラを数え、倒れなかったカプラを数えるということを繰り返し、その遊びの中で「結果の数」を意識している様子がうかがえた。「沢山倒れた！」「少し残った！」と多い少ないの比較もできるようになっている。「たくさん倒れるかな？」「全部倒れるかな？」と声を掛けることで、実際にカプラの数を数え、より「数量的な見通しと予測と結果の比較を経験することができた。また、「さっきよりたくさん倒れたね」との言葉かけで、数詞がわからなくても多い、少ないで数量感覚を育てることもできると感じた。「次は全部倒れるかな？」と伝えることで、遊びを通して予測と結果を伝えることもできた。何より、違う玩具を組み合わせ自分で遊びを発展させることが児の成長だと感じた。



～すくわくプログラム～

picoナーサリ久我山ガーデン：10月：2歳児

●テーマ：●～手先の巧緻性と空間認知能力・バランス感覚を養う力～

活動：カブラ

●子どもの様子●

カブラでお家を作り遊んでいたが、高く積み上げ始める。積み上げる方法は自分のなかでルールを作り、正方形を作るように積み上げ始める。



数を数えながらカブラを高く積み上げる。
「ゆっくりしなきゃダメなんだよ。」
「しずかにね！」と周りの友達に話しながら積み上げていく。



高く積み上げたカブラが倒れる音に、周囲の友達も驚いていた。
「一緒に積もうよ」と声を掛け、「順番ね」「壊さないようにそっとしようね」等の声をかけ、他社への配慮や、協同の意識が見られた。

●振り返いを踏まえた気付き●

手先を使用して、そっと積むことで、高く積み上げることに気付き、手や指をコントロールしながら、力加減やバランスを感じながら、集中して取り組む経験になっていると感じた。
また「まっすぐ積む」「ずれると倒れる」といった体験を通して、高さ・位置・重心といった空間的な感覚が育っていると感じる。自分が見立てながら、これくらいは積みそうということを確認しながら、思考力や試行錯誤する力も伸びている。
積むたびに「1・2・3…」と数えたり、「さっきより高くなったね！」と比較することで順序数・多少の比較・数量感覚が育っていると感じた。
言葉の発達に関しても「高いね」「あと1個積みたい!」「もう一回!」など、遊びの中で自然と言葉の表現力が広がっていた。

●取り組みに関して●

2歳児クラスがカブラを高く積む＝手先の器用さ・空間認識・数量感覚・集中力・協調性など、複数の領域の発達が同時に育っている遊びだと思った。
一つひとつ積むごとに「1・2・3…」と数を口にしながらかみ上げるとき、数唱を楽しみ、数と量の関わりに興味を持ち始めている。数に親しみをもち、積み重ねる数を唱えながら遊ぶことを楽しみ、数を数えながらかみ上げる経験を通して、数と数量のつながりに気付いていた。
最初は数をリズムの様に口にしていて、一つ積むごとに声を出して数えるようになり、数と実際の積み重ねが少しずつ結びつき始めている様子があった。
倒れてしまってもニタ「挑戦する姿も多くみられ、集中して試行錯誤する中で、高さの変化や数の増減を感じる経験になった。
保育士が「いくつ積めたね」「もう一つで10になるね」と声を掛けることで、子どもたちは数えることにひよこびを感じていた。
数唱から数量の理解へつながる遊びの展開を意識していきたい。

～すくわくプログラム～

picoナースリ久我山ガーデン：11月：2歳児

●テーマ：●～数唱からなる「つくる心の芽生え」～

活動：はさみ一回切り

●子どもの様子●

はさみで一回切りを楽しんだ後、数を数え、「〇〇個切ったよ！」と数を数えることを楽しんだのち、切った紙を丸く並べる姿が見られた。丸く並べた紙を、次は「自分の顔作る！」と目、髪の毛等、自分の顔を作る姿が見られる。



はさみの一回切りをやりたいと自分から希望し、切った紙をおままごとのフライパンに入れる。



切った紙を丸く並べ始める。



切った髪をすべて並べ、数を数える。



数を数えた後、自分の顔と言い、紙を顔に見たてて遊ぶ。

●振り返りを踏まえた気付き●

一回切りを楽しむ中で、子どもが切った紙を自分なりに並べようとする姿から、「つくることを考える力」が育っていることに気付いた。数を唱えながら並べるようになり、数量への興味と構成する喜びが結びついてきている。遊びに中で自然と「数と形を意識する力」に改めて気付かされた。子どもの「やってみたい形」や「数える楽しさ」に寄り添った環境作りを意識したい。

●取り組みに関して●

はさみの一回切りを繰り返し楽しむ中で、子どもたちは指先の使い方を覚え、紙を思うように切ることに自信を持ちはじめた。やがて切った紙を自分なりに並べる姿が見られ、ただ「切る」だけだった活動が「つくる」「構成する」遊びへと発展していった。

丸く並べたり、並べた紙を数えたりする姿も見られ、数唱への関心と、数量を感じ取る力が自然に育ち始めている。また、友達と「いくつある？」「もっと置こう」などと関わる中で、言葉のやり取りや共同の楽しさも広がった。

保育者が数を一緒に唱えたり、「たくさん並んだね」と声を掛けることで、子ども自身が数量や形の違いに気付く姿も増えてきた。


今回の取り組みを通して、はさみの操作だけでなく、数量、構成、表現が重なり合う豊かな学びが見られた。

今後は子どもが自ら「並べてみたい」「数えたい」と思える環境づくりを意識し、日常の中で数や形を楽しむ経験をさらに広げていきたい。


●テーマ：●～「つまんで、かぞえて、考える」～

活動：トング遊び


●子どもの様子● トングを使ってスポンジをつまみ、容器の中をよく見ながらそっと入れる姿が見られた。一つ入れるごとに「1. 2. 3…」と声に出して数え、数唱を楽しみながら取り組んでいた。「あか、あお」等、スポンジの色を言いながら入れたり、同じ色を集めて片付けたりする姿が見られ、色の違いに気付き意欲的に繰り返し遊ぶ姿が見られた。




スポンジをトングでつまみ、氷入れの中へ入れる



上の段から丁寧にひとつずつ入れる様子が見られる



スポンジを全部氷入れにいれ、それぞれの色の数を数える。



氷入れから今度は、元の入れ物へスポンジを戻し、この行いを繰り返して遊ぶ。

●振り返りを踏まえた気付き●

トングを用いてスポンジをつまみ、ひとつずつ数えながら入れたり、色を言いながら片付ける姿が見られた。手指の巧緻性ととも、数唱が実際の数量と結びつき、分類や言葉の理解へと発達していることが伺えた。

●取り組みに関して●

トングを使ってスポンジをつまみ、氷入れに入れていく中で、子どもたちは目と手を連動させながら、指先を丁寧に使う姿が見られた。繰り返し遊ぶうちに、スポンジを入れるたび「1. 2. 3…」と数を唱えるようになり、数唱が動作と結びついた経験となっていることを感じた。また、スポンジの色を言いながら入れたり、同じ色ごとに片付けたりする姿から、色による分類や考えて行動する力も育ち始めている。保育者が数や色の言葉を添えることで、子どもたちは意欲的に取り組み、巧緻性ととも、数や数量への関心が自然に広がっていった。今後は容器の数を二したり、「3個いれてみよう」「同じ色だけ集めてみよう」など、子どもの姿に合わせて少しずつ課題を変化させながら、数や分類を楽しむ経験を日常の遊びへとさらに広げていきたい。

●テーマ：数唱からなる「いくつできた？お部屋のかず遊び！」●

活動：磁石：カプラ遊び



カプラを横に立て、四角を作り、それを横に広げていく。



一列出来たら、その下に同じように四角を作り始める。



「1. 2. 3・・・」と四角の数を数え「ここは先生のお部屋」等々、数を唱えながら、部屋割りを考える。「16のお部屋ができた！」と伝える。

●子どもの様子●

カプラを横に並べて四角を作り、「ここおへや」と言いながら形を囲む姿が見られた。できた四角を次々つなげ、「もうひとつ」と増やしていく中で、自分なりのイメージを形にすることを楽しんでいた。完成したお部屋の数「1. 2. 3…」と数え唱えながら、いくつできたかを確認する姿も見られ、作る楽しさと、数える楽しさが一緒になった遊びへと広がっている様子が伺えた。

●振り返りを踏まえた気づき●

子どもたちはカプラを横に並べて四角を作り、それを「お部屋」に見立てて遊ぶ姿が見られた。四角をいくつも繋げながら、空間を構成し、「ここもお部屋」「もうひとつ」と増やしていく中で、自分なりのイメージを形にする楽しさを味わっていた。完成したお部屋を「1. 2. 3…」と数えながら、数唱が単なる暗唱ではなく、実際の数量を確認する手段として使われ始めていることが伺えた。また、同じ形を繰り返し作ることによって、形や順序への気づきも育っている。今回の取り組みは「構成遊び・見立て・数量理解が重なり合う、2歳児の豊かな遊びの場」となった。今後も子どもの『つくりたい』『確かめたい』という思いを大切にしながら、数や形に親しむ遊びを日常に中に広げていきたい。